

はじめに

沖縄県南城市の久高島、泡瀬・普天間星窪、読谷漁港に伝わる星名伝承について、特に生業のなかで形成された民俗知識を中心に天文学、民俗学の見地から現地調査を実施した。

また、地域の方言等について、沖縄県立図書館にて文献調査を実施した。生業とともに信仰という面からも追求するために、糸満市山巔毛についても写真撮影を実施した。

緊急事態宣言は解除されたものの、人の心は疲れ、語ることの喜びを共感することは困難で、感染防止の観点から紙に文字を記入して見せる等の工夫を行なったものの、2020年11月以前のような話者への長時間の聞き取りは困難であった。

1. 星名伝承調査

(1) 久高島 (11月11日実施)

話者生年 昭和2年 久高島出身。尋常小学校出て2年、昭和15年くらい、カツオで新川(石垣島)に行っていた。石垣に久高の人5隻いた。台湾、与那国、石垣に行っていた。戦後、くり舟でイカ。ドビイチャー。トシマ(十島村、トカラ)にイラブーとりに行った。高く売れる。久高で取る権利がないので、トカラへ。

①星名

星のことをプシと言った。オリオン三つ星について、黄金三つ星あるいはアガリミチブシ等の星名が伝承されていることを予測していたが、ミーティブシであった。

また、ブリブシは、空全体の星ではなかった。

その他、次のような星名を記録。

・オリオン三つ星：ミーティブシ

・明けの明星：ヨーカーブシ(ゆあきぶし、ゆーかぶしを言い直して、ヨーカーブシ)(北尾注：明けの明星イコール金星ではない。話者は、「夜明けに東からあがる。大きく」と言っており、金星が宵の明星として輝くとき、たとえば金星に迫る明るさである木星のケースもあると思われる)

・宵の明星：ユーバンマブヤー、ユーバンマムヤー(どちらも言う)(ユーバンは夕飯、まぶやー、まむやー：守る)

・北極星：ニヌファブシ 北極星。大きい、ナナティブシの横にある。右側に見える。大きい星。めあてになる。方向わかる。

・北斗七星：ナナティブシ(区長さんは、ナナツ。柄杓の形、ニブブシとは言わない)

・プレアデス星団(星の特徴からおそらく)：ブリ、群れになっていること。ブリブシ、小さい。(北尾注：話者は、最初ブルブシと言ったが、ブリブシと訂正した)

②伝承

・昔の人、イカ釣りに、くり舟で出た。ヨーカーブシでたから帰る時間ヨーカーブシ(あるいは星)が出たときに釣れることはない。月の出ているときより暗いときのほうがよい(北尾注：月の出していない暗いとき闇夜のほうが釣れる)

・旧6月、7月から8月ドビイチャー、トビイカ。

・月：ティキ

・太陽：ティラ。冬、喜屋武岬(きゃんみさき)に太陽落ちる。(テダバンタはない)

・ニヌファブシめあて、中国との貿易、久高の人が船長多い。福建省までニヌファブシ目

当てローソク、線香もやして、一本もた、と時間を知った。(北尾注：ニヌファブシで方角、線香をもやして時間を知り、福建省まで航海) (嵐などで遭難して) 帰って来れなかった人のことを、トータビ出た。唐旅に出た、と言った。唐の国に旅にいった→死んでしまったという意味。ニヌファブシめあてで、福建省まで行った。

- ・フシドミアテ、私をめあてにして
- ・フシノヤーウティ、移動する。ナガリブシ。
- ・洗骨は七夕の日ではない。寅年、旧7月洗骨、おはかにいかない。掃除に行くくらい。
- ・十五夜、外間殿(ほかまでん)で行なう。月上がったら、線香いっぱいつけて(?)
- ・テイーラ神。久高のほうから太陽のぼる。(北尾注 齋場御嶽(せーふぁー御嶽)の△?のまどから????。実際は齋場御嶽から見ると△窓はのぼる方向に開いていない)
- ・旧の4月時化する時期。プシアギ。荒れるという。南から風。(北尾注 プシは、糸満で記録したようなプレアデス星団ではない、星と関係ない)
- ・イチュンベ：なぎ ニンガチカジマーイ：2月 台湾坊主

(2) 読谷村出身、伊波氏(歴史民俗資料館館長)、昭和27年生まれ(11月12日実施)

①星名

・宵の明星：ユーバンマンジャー ユーバン：夕飯 マンジャー：食べたがっている。夕食を狙っている星。

②伝承

・群れ星：ムリブシは空に見える星ぼし

(3) 読谷村都屋漁港、読谷村伊良^{いらみな}皆出身昭和14年生まれ、漁業(11月12日実施)

①星名

・北極星：ニヌファブシ、それを目当てに。
・流星：ナガリブシ

②伝承

・群れ星：ムリブシ、星がたくさんある。全体の星。

(4) 2021年11月12日、沖縄県中頭郡読谷村(よみたんそん)宇座、宇座区自治会山内高雄会長(友利氏の案内)

(資料館で、ティンモーモーが読谷村史第四巻P55に掲載されていることに友利氏が気づき、訪問となる)

ティンモーモー：残波岬に集落があったころ、地頭をしていた与久田の先祖の屋敷に天から落ちたと伝えられている。現在は、宇座の公民館近くの与久田家の敷地内にある。(写真)



(5) 沖縄市泡瀬漁港昭和26年生まれ、30年生まれ(星名は26年生まれ) (11月12日実施)

①星名

・北極星：ニヌファブシ。北極星。動かない。それをめあて。80くらいの人から聞いた。

②伝承

・群れ星：ムリブシ、銀河みたいな、小さい。(北尾注：プレアデス星団を意味するか、天の川のような星いっぱいを意味するか不明)

(6) 沖縄市泡瀬漁港、嘉手納出身、昭和24年生まれ(11月12日実施)

①星名

・北極星：ニヌファブシ、言ったけど、いまGP(北尾注：GPS)とか入れているから星なんか見ない。

②伝承

・群れ星：ムリブシ、あんなの俺なんかわからん。

(7) 沖縄県沖縄市泡瀬漁港 島尻出身、昭和16年生まれ(11月12日実施)

①星名

・明けの明星と宵の明星：ユアケブシ、明るい。ユアケブシ、見て。ユアケブシは、太陽の出る方向と反対に出る。ユアカブシ、方言、夜明けじゃないかな。西。夕方から。(北尾注：明けの明星と宵の明星が混乱)

・北極星：ニヌファブシ、あれ使う。ひとつの星かきくと、はい。動くのですかと聞くと「動かない」。動かん。にーぬふあぶし。

あがってもこれ動かんよ。ニヌファブシ。ニヌファブシは、北(ようやく北と記憶を辿る)

②伝承

・北極星：ニヌファブシ、見て走っている。

・群れ星：ムリブシ、あれはわからんね。

(8) 沖縄県宜野湾市普天間星窪、普天間宮、新垣義夫宮司さん、昭和15年生まれ、普天間出身(11月12日、15日実施)

①^{ふしくぼ}星窪

市民駐車場(写真右)のところは、星村さんがボーリングする許可が得やすいので行なった。星が落下するとき、広い範囲に落ちるという前提。星窪と伝えられているのは、よなみね内科(沖縄県宜野湾市普天間2丁目4-5)の近くの新しいマンション。うるま市赤野?に星窪。座間味にも星窪?

②星名

・宵の明星：ユーバンマンジャー

・北極星：ニヌファブシ

・彗星：イリガンブシ

③伝承

・群れ星：星がたくさんある状態

.....

(北尾による測定)

①北尾 iPhone 裏手の星が落ちたと伝えられているマンション(サンライズかりゆし、から測定北緯26°17'18" 東経127°46'38" 高度70m



②美容院の斜め向かいマンション

北緯 26° 17' 18" 東経 127° 46' 34" 高度70m

③よなみね内科

北緯 26° 17' 17" 東経 127° 46' 36" 高度70m

④市民駐車場

北緯 26° 17' 16" 東経 127° 46' 36" 高度70m

.....

⑤住宅地

北緯 26° 17' 3" 東経 127° 46' 39" 高度40m

(9) 沖縄県糸満市山巔毛 (11月14日、16日実施)

右写真の左、アガリミチブシの香炉。右が東の方のウヌファの香炉。

金城善氏によると、「ユッカヌヒーの朝は山巔毛で糸満ハーレーのグルウグワン（早い拝み）のサンティンウガミ（山巔毛の拝み）が行われる。現在は、そこに設けられた五つの香炉に、線香や花米、酒が供えられると、カミンチュの合図に合わせてアガリミチブシの香炉から拝み始め、次に西に向きを変えてトゥイヌファの香炉でルーグシン（竜宮神）を拝み、北に向きを変えてニーヌファ（子の端）の香炉で北側の拝所を遙拝する。さらに向きを反対に変えて南の方のシマヌファの香炉で南側を遙拝する。最後に東の方のウヌファの香炉で東側の拝所を遙拝する」（金城善「フランス人東洋学者シャルル・アグノエルが訪ねた昭和五年の糸満町」『沖縄民俗研究第33号』沖縄民俗学会、2014、pp.45-47. 沖縄民俗学会）とあるので、まず上写真左の香炉から拝んで、最後に上写真右の香炉を拝むことになる。

なお、現在シマヌファの香炉の左手前にアガリミチブシの香炉があるが、金城氏によると、昔はその右の奥のほうにあったという話を聞いたことがあるとのこと。戦争で、すべてがなくなり、新たに戦後設置した。香炉の形も、こ



のようなものではなかったと思われる。これは港川（八重瀬町）のサンゴ礁を切り出して作ったもののようなのだ。元は、丸い形の香炉と思われる。金城氏の祖父が作る担当であったが、父親が仕事で糸満におられず正確に引き継げず、現在のような形状の香炉となった。

上右写真のように中央に方位表示があるが、糸満市が設置したもので、そこから各々の香炉を見ても方角はずれているので意味がない。

左写真の図のペンを置いた位置より見ると各々の香炉はおおよそその方角に近くなる。

(10) 2021年11月15日、弁ヶ岳 (べんがだけ) 沖縄県那覇市首里鳥堀町
地元の女性 (英祖の末裔)

- ①ムリブシ、(空) 全体にあれこうして。(北尾注 空全体の星をムリブシ、プレアデス星団単体ではない)
- ②ナナチブシ、ニヌファブシと同じ。ななつ。柄杓の形。
- ③ユーバンマンジャー マンジャー: ほしがっている 夕飯をほしがっている (北尾注 西にこの頃輝いている星について聞いた)
- ④オオタケ、王も入れなかった。高級神女のみ入れた。女の神。
- ⑤ウータキ (小) 久高、斎場 (さーふぁー) 御嶽を遙拝するところ (左)、航海の神様 (右) (船の形になっていた) 水の神、航海安全
- ⑥ウータキさらに右、最初に久高島を撮影したところ。沖縄神社。(首里城のところにあったのを琉球大学建設にともない現在地に移転された)

(11) 糸満市武富グスク、

(12) 2021年11月15日 斎場御嶽

- ①斎場御嶽 途中 久高島をのぞむ高所
北緯 $26^{\circ} 10' 21''$ 東経 $127^{\circ} 49' 37''$ 高度70m
久高島、東より約24度南
- ②さんかくまど
北緯 $26^{\circ} 10' 25''$ 東経 $127^{\circ} 49' 39''$ 高度90m
△窓は南より約15° 西に。

(13) 2021年11月16日 八重瀬町 ぎんぎや

(14) 2021年11月16日 糸満市大里 南山城跡

北緯 $26^{\circ} 7' 39''$ 東経 $127^{\circ} 41' 24''$ 高度60m

(15) 2021年11月15日 糸満市山巔毛

北緯 $26^{\circ} 7' 48''$ 東経 $127^{\circ} 40' 13''$ 高度30m (14日高度測定10m どちらが正しいか?)

(16) 2021年11月16日 糸満市糸満沖縄県糸満市玉城亀助さん (糸満出身、昭和6年生まれ)

- ①ニヌファブシ 動かない
- ②南十字星 ウマノファ 夜中見える
一番上の星 ● 動かない星
下の三つの星 ● ● 動く星
● 動く星

③ブリブシ 動く

④与那国まで行った

⑤フサアギ、4月。(旧の4月) ブリブシ、4月に上がる。そのとき、風が吹く時季になると言われているさ。フサアギ、要注意。東から東風。フサアギ、星上がり。旧の4月。

- ⑥フサアギ、旧5月、6月は（明け方？ブリブシが）、真上に来る。
- ⑦ニーブブシ、北斗七星。七つの星。
- ⑧イリガブシ出たら、戦争。15, 6歳のとき、見た。
- ⑨ユーアキブシ、2時間で朝。ブリブシのことを、ユアカブシと言う。（北尾注　ブリブシとユアカブシが混乱??）
- ⑩（魚は）月明りを嫌う。（星、関係ない）
- ⑪ニヌファブシ、目当てに行った。

2. 文献調査（11月13日、17日（飛行機出発まで）実施）

沖縄県立図書館にて次の資料調査を実施した。

- ・プレアデス星団の星名研究のために必要な方言資料等